

## Special Session 「Geomembrane Liners on steep slopes and walls」

三菱化学産資(株) 山野 巖

このセッションは、スペシャルセッションという位置づけであります。処分場・ダム・貯水池などの切土法面やコンクリート擁壁などの急勾配斜面上にジオメンブレンを敷設する工法の紹介を中心として発表が行われました。本セッションの座長は Dr.I.Peggs (USA)、副座長は Mr.H.Y.Jeon (Korea) が担当されています。下記の表題で全6編の発表がありました。

- ①『急勾配切土からなる処分場のライニングにおけるUKとヨーロッパの開発状況』
- ②『急勾配法面上のライナー』
- ③『なぜ織布のジオメンブレンを用いるのか』
- ④『キャストインライナー工法について』
- ⑤『急勾配法面上でのジオメンブレンの固定と保護』
- ⑥『エキスパートを訪ねて』

①では、ヨーロッパ（主にUK）での処分場法面の保護工法についての紹介がありました。法面にロックボルトを用いてコンクリートパネルを固定する工法や鋼製フレームを用いて法面保護を行われた事例の紹介がありました。②では、香港において施工された大規模処分場の施工事例から、急勾配法面にジオメンブレンを設置する際の問題点として、曲げ部での応力集中によるメンブレンの破れなどが指摘されていました。③では、大深度の処分場において、ジオメンブレン保護のために不織布ではなく織布を用いて施工された事例の紹介がありました。④では、コンクリートとジオメンブレンとを効率的に一体化させるため、製造時にメンブレン表面にV型の突起を設け、これをコンクリートに対するアンカーとして活用する『キャストインライナー工法』の紹介がありました。⑤では、ジオメンブレンを斜面上に固定する方法についての新しい工法についての紹介がありました。⑥では、発表者の G.Vaschetti 氏が各地で見た施工事例をダイジェスト的に紹介されていました。

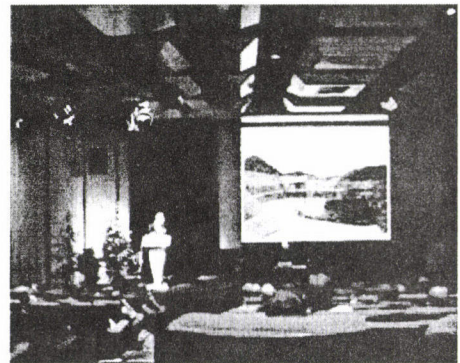


写真 論文発表状況

(論文④を発表する D.Viljoen 氏)

本セッションの全6編ともかなり大規模な処分場造成工事の事例紹介でしたが、ジオメンブレンの保護や法面保護になどの技術的な課題に関しては、規模の大小に関わらず共通した課題であること、またより良い工法の開発が世界各国で進んでいる状況が紹介されていました。

今回の学会は、フランスのニース市という世界的な観光地で行われました。地中海を望む海岸線の美しさもさることながら、伝統的な街並みや石畳の路地など歴史を感じさせる風景とこれに溶け込むように作られた近代建築物など統一感を重視した街作りが行われていました。どうしてもコスト重視な社会資本整備に傾きがちな日本にいと、こういった風景が少しうらやましく感じられました。